日本パブリックリレーションズ協会会員誌

PRSj NEWS

PUBLIC RELATIONS SOCIETY OF JAPAN

2013 年 6 月

NO. 242

TOPICS

「日本PR協会の広報活動について」
(公社)日本パブリックリレーションズ協会　副理事長　　渡邉　幹夫
MESSAGE　P3

「定例研究会　聴講申し込み方法の変更についてのお知らせ」
ATTENTION　P4

「広報PRアカデミー2013
今年も「PRプランナー1 次試験対応講座」を開講」
ATTENTION　P5

「第 13 回「PRプランナー資格認定検定試験」
7 月 19 日まで 1 次試験受験予約受付中！」
ATTENTION　P6

公益社団法人日本パブリックリレーションズ協会

〒106-0032 東京都港区六本木 6 丁目 2 番 31 号　六本木ヒルズノースタワー5F
電話(03)5413-6760　ファックス(03)5413-2147
URL　http://www.prsj.or.jp/

関西支部　〒530-0003 大阪市北区堂島 2-1-27 桜橋千代田ビル 3F
電話(06)6344-3002　　ファックス(06)6344-3005

発行人:森　　健

6月号　目次

6月・7月のスケジュール		1
MESSAGE(メッセージ)	「日本PR協会の広報活動」	3
ATTENTION(お知らせ)	「定例研究会聴講申し込み方法変更についてのお知らせ」	4
〃	「広報PRアカデミー2013　今年も「PRプランナー1次試験対応講座」を開講」	5
〃	「第13回PRプランナー資格認定検定試験　7月19日まで1次試験受験予約受付中！」	6
BULLETIN(活動報告)	「第2回「通常総会」・「懇親パーティ」開催」	8
〃	「広報PRアカデミー2013「広報・PRプロジェクト事例セミナー」を開催」	9
〃	「第12回PRプランナー資格認定検定試験2次試験を5月19日に実施」	10
〃	「「PR Yearbook 2013」発刊」	12
〃	「第10回「広報ゼミ」開催報告　テーマ：危機管理広報」(会員限定)	13
〃	「第26回「PRスキル研究会」開催報告」(会員限定)	13
VOICE of PR Planner	「PR業界底上げのための第一歩」	14
REPORT(講演レポート)	「第147回定例研究会開催報告」(会員限定)	15
PR TREND(PRトレンド(関西)	「関西の風：落語を聴いてみませんか」	16
PLAZA(会員便り)	「共同ピーアール㈱が「企業不祥事に関する意識」アンケート調査を実施」	17
〃	「淑徳大学 教授 清水正道氏が共著「人にやさしい会社」を 5 月 2 日発刊」	18
協会掲載記事	「PRSJ in Media 5 月」	19

6月～7月スケジュール

第 8 回PRプランナー交流会	日　時	：	6 月 12 日(水)　19:00～21:00
	会　場	：	㈱アサツー　ディ･ケイ　11F　ラウンジ
広報 PR アカデミー2013 **「PRプランナー3 次試験対応講座」**	日　時	：	6 月 13 日(木)、19 日(水)、26 日(水) 7 月 3 日(水)、10 日(水)、17 日(水) いずれも 19:00～21:00
	会　場	：	六本木アカデミーヒルズ 49
2013 年度「広報基礎講座」 **（関西部会）**	日　時	：	6 月 19 日(水)･20 日(木)　10:00～17:30
	会　場	：	中央電気倶楽部 215 号室
特別国際セミナー **「ブルームバーグ東京支局の** **セミナーと見学会」**	日　時	：	6 月 21 日(金)　12:00～13:30
	会　場	：	Bloomberg NEWS(ブルームバーグ･ニュース)
	講　師	：	ブルームバーグ･ニュース　東京副支局長　谷合謙三氏
第 149 回定例研究会(予定)	日　時	：	7 月 5 日(金)　12:00～14:00
	会　場	：	日本外国特派員協会(FCCJ)
	講　師		ダイヤモンド社「週刊ダイヤモンド」編集長　小栗正嗣氏
広報 PR アカデミー2013 **「PRプランナー1 次試験対応講座」**	日　時	：	7 月 9 日(火)、16 日(火)、30 日(火) 8 月 6 日(火)　　いずれも 19:00～21:00
	会　場	：	六本木アカデミーヒルズ 49
なでしこカウンシル	日　時	：	7 月 10 日(水)　12:00～14:00
	会　場	：	クルーズクルーズ　THE　GINZA
	講　師		㈱TMオフィス　代表取締役社長　殿村美樹氏
広報活動研究会(企業部会)	日　時	：	7 月 16 日(水)　14:30～
	会　場	：	キリン横浜ビアビレッジ(キリンビール横浜工場)訪問
PRプランナー資格認定 **検定 3 次試験**	日　時	：	7 月 27 日(土)　12:25～16:00
	会　場		富士通ラーニングメディア品川ラーニングセンター(東京) 富士通ラーニングメディア関西ラーニングセンター(大阪)

6月の理事会・委員会・部会スケジュール

定例理事会（６月度）	日　時	：	6 月 11 日（火）　12：00～14：00
	場　所	：	六本木ヒルズクラブ
幹部会（経営会議）（６月度）	日　時	：	6 月 11 日（火）　10：30～11：45
	場　所	：	協会会議室
教育委員会（６月度）	日　時	：	6 月 13 日（木）　12：00～14：00
	場　所	：	協会会議室
資格委員会（６月度）	日　時	：	6 月 27 日（木）　12：00～14：00
	場　所	：	協会会議室
交流委員会（６月度）	日　時	：	6 月 20 日（木）　12：00～14：00
	場　所	：	協会会議室
広報委員会			
PR小委員会(6月度)	日　時	：	6 月 26 日（水）　14：00～16：00
	場　所	：	協会会議室
出版小委員会(6月度)	日　時	：	6 月 26 日（水）　16：00～18：00
	場　所	：	協会会議室
顕彰委員会(6月度)	日　時	：	6 月 26 日（水）　12：00～14：00
	場　所	：	協会会議室
企業部会幹事会（６月度）	日　時	：	6 月 3 日（月）　17：00～18：00
	場　所	：	協会会議室
ＰＲ業部会幹事会（６月度）	日　時	：	6 月 13 日（木）　16：00～18：00
	場　所	：	協会会議室

日本ＰＲ協会の広報活動について

公益社団法人 日本パブリックリレーションズ協会
副理事長　渡邉 幹夫

この 5 月 31 日に日本パブリックリレーションズ（ＰＲ）協会の総会が開かれ、昨年度の事業報告と今年度の方針について森理事長を中心に報告と説明を行いました。私は引き続き「広報委員会」の委員長を務めさせていただきますので、昨年度と今後の取り組みについてお話しします。

昨年は、公益社団法人として、広く社会に広報・パブリックリレーションズの理解を得るために、広報機能を強化しました。具体的には広報委員会の下に「ＰＲ小委員会」「出版小委員会」「顕彰小委員会」という 3 つの小委員会を設け、各々の実行力を高めるとともに、3 つを連携させることで情報発信力を高めました。

顕彰小委員会では、これまでの「日本ＰＲ大賞パーソン・オブ・ザ・イヤー」に加えて、昨年より、地道な活動を続けている優れた広報パーソンの掘り起こしを目的に「日本ＰＲ大賞シチズン・オブ・ザ・イヤー」を設けました。前者には日本文学と日本文化研究の第一人者であり、東日本大震災を機に日本の国籍を取得したドナルド・キーン氏が、後者には「日本一短い手紙 一筆啓上賞」の仕掛け人で、福井県丸岡町の町おこしを成功させた大廻政成氏が受賞されました。加えて、同小委員会では、コミュニケーション技術の質的向上およびパブリックリレーションズに対する一層の理解促進を目的として「ＰＲアワードグランプリ」を実施し、グランプリの「もっとクロス！計画　日本赤十字社ＰＲ力強化プロジェクト」をはじめ、3 つの最優秀作品と 3 つの優秀作品を顕彰しました。

出版小委員会では、「ＰＲ Yearbook」を当協会のハウスオーガンとしての位置付けを明確にし、本年 6 月発行の 2013 年版では各委員会や部会の連携を深め、主要な成果をコンテンツとして掲載しています。一つは顕彰小委員会の「日本ＰＲ大賞」と「ＰＲアワードグランプリ」です。二番目はＰＲ業部会の 35 歳以下の若手で構成される「ＰＲ業近未来予測研究会」による「ＰＲ業界の 3 年後のあるべき姿像」です。

ＰＲ小委員会では、会員にむけての「協会ニュース」の他にメディアリレーションズにより対外的発表を行っています。新たなところでは広報専門誌の「広報会議」に当協会のコーナーを開設していただきました。5 月号では企業部会広報ゼミを基に「デジタル化時代のインターナル広報」を、6 月号では先に紹介の「ＰＲ業近未来予測研究会」の研究成果を「コミュニケーション環境の変化とＰＲ」として発表。7 月号では「ＰＲ Yearbook 2013」掲載の特集「広報効果測定の今、これから」の要旨を掲載するとともに同誌の紹介を行っています。

このような形で、[調査研究 →『協会ニュース』『ＰＲ Yearbook』での発表→『広報会議』等での対外的な発表]の流れができたので、今後も情報発信力を高めていきたいと考えています。

なお、「顕彰小委員会」につきましては、「日本ＰＲ大賞シチズン・オブ・ザ・イヤー」を継続的に行うなどの業務が拡大しましたので、2013 年度より独立の「顕彰委員会」といたします。

他の変更ではＩＴ委員会の機能を「ＰＲ小委員会」に移管します。その他の「教育」「資格」「交流」「広報」の各委員会には変更ありません。

新年度に入りましたので各委員会ともに新たな委員を加えて、パワーアップしていきたいと思いますので、委員会活動に協力いただける方は、ぜひ協会にご連絡ください。

ATTENTION

●「定例研究会」聴講申し込み方法の変更についてのお知らせ●

2013 年 7 月 5 日開催の「第 149 回定例研究会」より聴講の申込み方法はWebのみとなります

協会ニュース 3 月号、4 月号、5 月号でもお知らせいたしましたが、かねて事務局では事務の効率化と会員サービスの向上のため、業務電子化の取り組みを進めてまいりました。
その一環として、現在、Webと返信メールにて受付けております定例研究会の聴講申込みについて、7月開催の「第 149 回定例研究会」より**Webによる申込みに一本化**させていただきます。

皆さまには事情ご賢察の上、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

事務局

広報PRアカデミー2013

今年も「PRプランナー1 次試験対応講座」を開講

---7 月 9 日より 4 回にわたり六本木アカデミーヒルズにて開講---

教　育　委　員　会

教育委員会では、7 月 9 日より 8 月 6 日まで、「ＰＲプランナー1 次試験対応講座」を 4 回にわたり六本木アカデミーヒルズ 49 にて開講いたします。

最近、人気の高まりをみせ、すでに 1400 人を越えるＰＲプランナーが誕生したＰＲプランナー認定資格。この 8 月下旬には第 13 回 1 次試験が実施されます。

このＰＲプランナー資格の取得には、広報・ＰＲに関する幅広い分野における基本的な知識が問われます。1 次試験合格をめざす受験者を対象とする本講座では、過去の試験で出題された問題を使用した模擬試験形式を採用し、1 次試験の形式やレベルを習得することができます。また、問題と解答の解説を通じて各分野における基本的な知識に関する理解を深められます。

なお、講座では、インターネットを利用し会場外からの受講を可能とした「Ｗｅｂ受講サービス」を提供します。本サービスにより地方等の遠隔地や自宅外から講座をライブで受講できることに加え、講義の動画データのアーカイブの視聴によりご自身の都合の良い時に学習することが可能です（アーカイブは視聴期間限定）。

講座の詳細と受講申込みは、6 月上旬より協会Ｗｅｂサイト「セミナー/イベントを探す」の「ＰＲプランナー１次試験対応講座」のページをご参照ください。

http://event.prsj.or.jp/prp/1st_201307

■ＰＲプランナー認定１次試験対応講座の概要

日　程	講　座　内　容	講　師	受講料	申込締切
7 月 9 日（火） 19:00～21:30	・パブリックリレーションズの基本 ・企業経営とパブリックリレーションズ ・広報・PRマネジメント	（公社）日本パブリックリレーションズ協会　事務局次長　真部一善	**会場受講＋Web 受講** 一般 31,500 円 学生 18,900 円 PR協会会員 21,000 円 **Web 受講のみ** 一般 21,000 円 学生 18,900 円 PR協会会員 21,000 円	**会場受講＋Web 受講** **7 月 2 日（火）まで** **Web 受講** 講座開始後でも受付けますが、終了後の講座はアーカイブの視聴のみとなります
7 月 16 日（火） 19:00～21:30	・コミュニケーションとPR ・メディアリレーションズ ・マーケティングとPR	㈱株式会社インターナショナルランゲージアンドカルチャーセンター PR・PA部部長 永井 昌代 氏		
7 月 30 日（火） 19:00～21:30	・行政・団体の広報活動 ・国際広報 ・企業と危機管理 ・経営倫理とプロフェッショナリズム			
8 月 6 日（火） 19:00～21:30	・インベスターリレーションズ ・エンプロイーリレーションズ ・ネットPR	（公社）日本パブリックリレーションズ協会　事務局次長　真部一善		

日本ＰＲ協会会員社員の受講料は、法人正会員社員、もしくは個人正会員ご本人様のみとなります。

PRプランナー3 次試験対応講座　受講受付中！

「PRプランナー3 次試験対応講座」を 6 月 13 日より開講します。会場外から任意の時間に講座を視聴できるWeb受講は開講後も受付けます。Web受講ご希望の方は、下記ページをご参照ください。

（協会 Web サイト「セミナー/イベントを探す」の「PRプランナー3 次試験対応講座」ページ）

http://event.prsj.or.jp/prp/3rd_201306

第 13 回「PRプランナー資格認定検定試験」
7 月 19 日まで 1 次試験受験予約受付中！

資　格　委　員　会

第 13 回ＰＲプランナー資格認定検定試験 1 次試験（実施：8 月 25 日(日)）では、東京・大阪以外での各地域での開催希望の声に応え、第 11 回に引き続き北海道と、今回から新たに名古屋会場にて、「ＰＲプランナー資格認定制度／検定第 1 次試験」を実施します。

日本ＰＲ協会が認定する「ＰＲプランナー資格認定制度」は、広報・ＰＲの業務に求められる専門的な知識やスキル、職能意識等を検定し資格として認定する、公益法人としてわが国唯一の資格制度です。検定試験は第 1 次から第 3 次にわたり、さらに書類審査を経て、広報・ＰＲに関する高い専門能力の保有を認定する「ＰＲプランナー」資格を取得することができます。本制度は 2007 年より発足しすでに 11 回の試験を実施、難関を突破し資格を取得した 1,428 名のＰＲプランナーが一般企業、ＰＲ会社、政府機関や自治体等で活躍しています。

受験予約申込は、7 月 19 日（金）までとなっておりますが、定員に達し次第締め切らせていただきますので、予めご了承くださいますようお願い申し上げます。

＜ＰＲプランナー資格認定制度／検定第 1 次試験　実施概要＞

試験日	2013 年 8 月 25 日（日） 試験は東京・大阪・札幌・名古屋会場ともに 8 月 25 日（日）午前中に同時実施・終了する予定です。
募集定員	東京：400 名・大阪会場：80 名・札幌会場：80 名・名古屋会場：80 名
受験応募･申込方法	資格制度Ｗｅｂサイトで受験予約を行った上で申込書を郵送
受験予約期間	2013 年 6 月 3 日（月）～ 2013 年 7 月 19 日（金）
申込書送付期間	2013 年 6 月 4 日（火）～ 2013 年 7 月 26 日（金）＜必着＞
受験票送付	2013 年 8 月 9 日（金）発送
合否通知送付	2013 年 9 月 6 日（金）発送 ・受験申込書にご記入いただいたご住所に、合否通知を発送いたします。 ・合格された方には、2 次試験ならびにＰＲプランナー補認定申請のご案内を、メールでも 9 月 9 日（月）にお送りします。

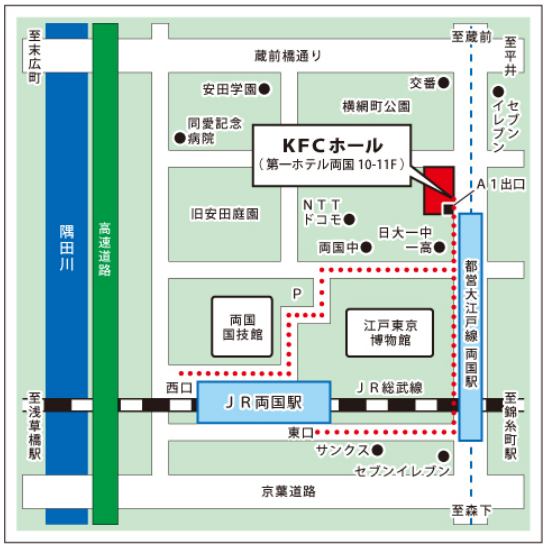
＜試験時間＞

０９　時　３０　分	各試験会場に入館できます
１０　時　２０　分	指定の教室・座席にご着席ください
１０　時　２５　分	注意事項伝達・試験問題配布
１０　時　４０　分	試験開始
１２　時　００　分	試験終了

受験会場

第 13 回ＰＲプランナー資格認定検定試験（1 次試験）の験会場は、東京・大阪・札幌・名古屋の下記会場となります。試験開始時刻の「20 分前」までにお越しになり、指定の座席にご着席ください。

東京会場



ＫＦＣホール
東京都墨田区横網 1－6－1
・ＪＲ総武線「両国駅」下車 徒歩 8 分
・都営大江戸線「両国駅」直結

大阪会場

大阪ＹＭＣＡ国際文化センター
大阪府大阪市西区土佐堀 1－5－6
・地下鉄四つ橋線「肥後橋駅」下車 徒歩 6 分
・京阪中之島線「中之島駅」下車 徒歩 8 分
・京阪中之島線「渡辺橋駅」下車 徒歩 9 分

札幌会場

北海道建設会館
北海道札幌市中央区北 4 条西 3－1
・ＪＲ「札幌駅」南口から徒歩 3 分
・地下鉄「さっぽろ駅」12 番出口（西武）
　13 番出口（東急）　から徒歩 3 分
・ＪＲバス／中央バス 駅前ターミナル前 徒歩 1 分

名古屋会場

愛知建設業会館
愛知県名古屋市中区栄 3－28－21
・地下鉄名城線「矢場駅」下車 徒歩 3 分

第 2 回「通常総会」・「懇親パーティ」開催

第 2 回通常総会が、5 月 30 日(木)午後 5 時から、東京都港区六本木の六本木ヒルズ森タワー 49 階　アカデミーヒルズ 49「スカイスタジオ」において開催されました。

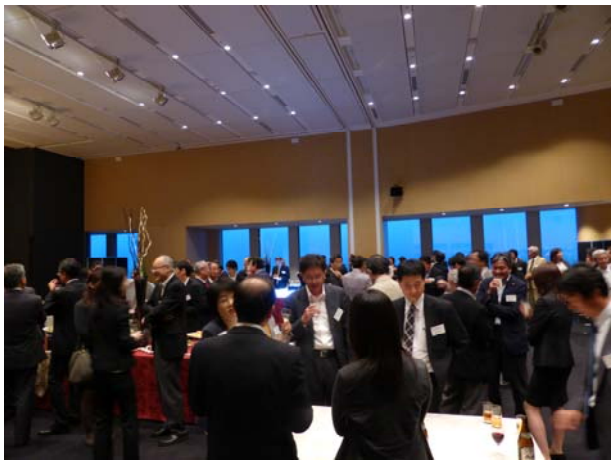
出席者 42 名、議決権行使書提出者 212 名で、合計 254 名。定足数の 208 名を超え、総会は成立しました。

総会では、次の 2 つの議案の審議と 2 つの報告が行われ、議案事項は全て承認されました。

【議案審議】
第 1 号議案　平成 24 年度事業報告
第 2 号議案　平成 24 年度収支決算報告
　　並びに監査報告

【報告事項】
第 1 号報告　平成 25 年度事業計画
第 2 号報告　平成 25 年度収支予算

午後 6 時 30 分から、同階「タワーホール」において懇親パーティが行われ、こちらも 131 名（招待者含む）の参加者を迎え、大変な盛況でした。



広報PRアカデミー2013

「広報・PRプロジェクト事例セミナー」を開催

―「PRアワードグランプリ 2012」受賞作品を一堂に公開―

教育委員会・広報委員会

5 月 22 日（水）、東京・港区の「ＡＰ浜松町」にて、「ＰＲアワードグランプリ 2012」の受賞プロジェクトを紹介する「広報・ＰＲプロジェクト事例セミナー2013」が、100 名を超える聴講者の参加のもとに開催されました。セミナーでは、「コーポーレート・コミュニケーション部門」「マーケティング・コミュニケーション部門」「ソーシャル・コミュニケーション部門」の最優秀賞、そして栄えある「グランプリ」の受賞プロジェクトの概要が、受賞者みずからのプレゼンショーンによりあますところなく公開されました。

セミナー当日は、当協会の菊地教育委員長による進行のもと、ＰＲアワードグランプリの意義を語り受賞を称える森理事長の挨拶を皮切りに午後 7 時よりスタート、会場はつめかけた聴講者の熱気に包まれました。

講演は、「コーポレート・コミュニケーション部門」最優秀賞を受賞した㈱博報堂関西支社の東 達彦氏の『「元気な大阪」体験取材プログラムで５つのＷＩＮ ＯＳＡＫＡ発見隊』より始まり、続いて㈱電通の平井聡子氏による「マーケティング・コミュニケーション部門最優秀賞」を受賞した『森永製菓「森永甘酒」のための甘酒市場活性化を目的としたＰＲ活動』についての講演が行われました。

10 分間の休憩をはさんで、ブルーカレント・ジャパン㈱の中里　忍氏により「ソーシャル・コミュニケーション部門最優賞」を受賞した『熱中症や感染症による「脱水状態」に対する正しい知識の認知向上　教えて！「かくれ脱水」委員会』について解説が行われ、2 年連続でグランプリ受賞の栄誉に輝く㈱電通パブリックリレーションズの花上憲司氏による『もっとクロス！計画～日本赤十字社ＰＲ力強化プロジェクト～』で講演が締めくくられました。

セミナーでは、昨年実施された審査会における 10 分のプレゼンテーション時間を上回る 25 分間の講演と質疑が実施され、受賞プロジェクトの概要やポイントがより詳しく示されたことから参加した多くの聴講者の注目を集めました。

「ＰＲアワードグランプリ」は本年も開催が予定されており、ＰＲ会社や企業の広報部門より多くのプロジェクトの応募が見込まれます。教育委員会では来年度も本セミナーの開催を予定しており、さらに優れたプロジェクトの公開が期待されます。

第 12 回PRプランナー資格認定検定試験
2 次試験を 5 月 19 日に実施
新設会場の福岡を含め、210 名の受験者が挑戦！

資　格　委　員　会

5 月 19 日（日）、第 12 回ＰＲプランナー資格検定 2 次試験が東京・学習院大学、大阪・天満研修センター、福岡・福岡建設会館で行われました。今回の 2 次試験では、東京会場：196 名、大阪会場：31 名、福岡：5 名の合計 232 名が受験申込をされ、当日は 210 名（東京会場：174 名、大阪会場：31 名、福岡：5 名）の受験者が受験し、そのうち 156 名が合格されました。今回から 2 次試験は、４科目一括での受験のみとなり、合否も４科目一括となります。

今回も当日は、東京・大阪会場ともに、好天に恵まれましたが福岡は梅雨の影響で小雨でした。しかし、無事終了することができました。ご協力いただきました関係者の皆様には、厚くお礼申し上げます。

なお、今回の 2 次試験の受験者および合格者・合格率は以下の通りです。

＜　第 12 回　科目別　正答率 65%以上　＞

科目Ａ：ＣＳＲ、ＩＲ、危機管理等、企業経営とコミュニケーションに関する知識
受験者 210 名、正答率 65%以上 169 名、達成率 80.5%

科目Ｂ：マーケティング、ブランドマネジメントに関する知識
受験者 210 名、正答率 65%以上 181 名、達成率 86.2%

科目Ｃ：広報・ＰＲ実務に関する知識
受験者 210 名、正答率 65%以上 186 名、達成率 88.6%

科目Ｄ：時事知識
受験者 210 名、正答率 65%以上 167 名、達成率 79.5%

＜　第 12 回　2 次試験合格率＞

受験者 210 名、合格者 156 名、合格率 74.3%

※上記「科目別　正答率 65%以上」の人数は、2 次試験合格基準となる「全出題数に対して正答率 65%以上、かつ各科目の正答率がいずれも 50%以上で合格」を満たした人数となり、達成率は、全体での割合として記載しております。

＜学習院大学　中央教育研究棟＞

＜福岡建設会館＞

■第 12 回２次試験(2013 年 5 月 19 日)　合格率・受験者プロフィール

		PR業/PR関連業	一般企業(広報PR関連)	一般企業(その他)	各種団体	教育機関	自治体	学生	その他	全体
男性	受験者	44 名	33 名	12 名	0 名	4 名	4 名	2 名	12 名	111 名
	合格者	35 名	27 名	8 名	0 名	4 名	3 名	0 名	11 名	88 名
女性	受験者	22 名	44 名	13 名	5 名	4 名	1 名	5 名	5 名	99 名
	合格者	13 名	35 名	9 名	3 名	2 名	1 名	2 名	3 名	68 名
全体	受験者(全体比)	66 名(31.4%)	77 名(36.7%)	25 名(11.9%)	5 名(2.4%)	8 名(3.8%)	5 名(2.4%)	7 名(3.3%)	17 名(8.1%)	210 名(100.0%)
	合格者(全体比)	48 名(30.8%)	62 名(39.7%)	17 名(10.9%)	3 名(1.9%)	6 名(3.8%)	4 名(2.6%)	2 名(1.3%)	14 名(9.0%)	156 名(100.0%)
	合格率	**72.7%**	**80.5%**	**68.0%**	**60.0%**	**75.0%**	**80.0%**	**28.6%**	**82.4%**	**74.3%**

		20 代	30 代	40 代以上	全体
男性	受験者	39 名	53 名	19 名	111 名
	合格者	26 名	45 名	17 名	88 名
女性	受験者	37 名	45 名	17 名	99 名
	合格者	18 名	38 名	12 名	68 名
全体	受験者(全体比)	76 名(36.2%)	98 名(46.7%)	36 名(17.1%)	210 名(100.0%)
	合格者(全体比)	44 名(28.2%)	83 名(53.2%)	29 名(18.6%)	156 名(100.0%)
	合格率	**57.9%**	**84.7%**	**80.6%**	**74.3%**

受験者	合格者	合格率
210 名	156 名	**74.3%**

■　２次試験累計(第１回～第 12 回)　合格率・受験者プロフィール

		PR業/PR関連業	一般企業(広報PR関連)	一般企業(その他)	各種団体	教育機関	自治体	学生	その他	全体
男性	受験者	485 名	513 名	151 名	18 名	39 名	34 名	60 名	88 名	1388 名
	合格者	397 名	429 名	114 名	12 名	32 名	29 名	32 名	70 名	1115 名
女性	受験者	331 名	528 名	120 名	20 名	27 名	23 名	70 名	87 名	1206 名
	合格者	236 名	370 名	83 名	12 名	20 名	20 名	43 名	50 名	834 名
全体	受験者(全体比)	816 名(31.5%)	1041 名(40.1%)	271 名(10.4%)	38 名(1.5%)	66 名(2.5%)	57 名(2.2%)	130 名(5.0%)	175 名(6.7%)	2594 名(100.0%)
	合格者(全体比)	633 名(32.5%)	799 名(41.0%)	197 名(10.1%)	24 名(1.2%)	52 名(2.7%)	49 名(2.5%)	75 名(3.8%)	120 名(6.2%)	1949 名(100.0%)
	合格率	**77.6%**	**76.8%**	**72.7%**	**63.2%**	**78.8%**	**86.0%**	**57.7%**	**68.6%**	**75.1%**

		20 代	30 代	40 代以上	全体
男性	受験者	374 名	621 名	393 名	1388 名
	合格者	272 名	507 名	336 名	1115 名
女性	受験者	468 名	545 名	193 名	1206 名
	合格者	307 名	389 名	138 名	834 名
全体	受験者(全体比)	842 名(32.5%)	1166 名(44.9%)	586 名(22.6%)	2594 名(100.0%)
	合格者(全体比)	579 名(29.7%)	896 名(46.0%)	474 名(24.3%)	1949 名(100.0%)
	合格率	**68.8%**	**76.8%**	**80.9%**	**75.1%**

受験者	合格者	合格率
2594 名	1949 名	**75.1%**

「PR Yearbook 2013」発刊
～PR この１年～

広　報　委　員　会

今年も１年間の国内外のパブリックリレーションズの動きを網羅した「ＰＲ Yearbook 2013」を発刊いたしました。本誌は、2012 年の広報・ＰＲに関する動向や注目のトピックスを取り上げ、独自の視点で１年を振り返る年鑑で、今号で５号目になります。

特に今号の特長としては、

・公益社団法人である日本ＰＲ協会のハウスオーガンとして、これからの広報のあり方、広報パーソンとしての持つべき視点に重点を置いて編集しました。

・広報の大きなテーマである「広報の効果測定について」の特集を組みました。代表的な効果測定の事例を紹介すると共に、海外の動向や現状の課題と今後の方向性への考察。

・会員外にも門戸を開放した「ＰＲアワードグランプリ」の優秀作品と審査方法を詳しく紹介。加えて、「日本ＰＲ大賞　パーソン・オブ・ザ・イヤー」と新設の「日本ＰＲ大賞　シチズン・オブ・ザ・イヤー」について紹介します。

広報実務に携わる方に、必ずお役に立てる１冊として自信を持ってお送り申し上げます。

- ● 名　称　：「ＰＲ Yearbook　2013」
- ● 発行元　：公益社団法人
  日本パブリックリレーションズ協会
- ● 発行部数：1,100 部
- ● 発行日　：2013 年６月３日(月)
- ● 体　裁　：Ａ4 判／96 頁／平綴じ／表紙関係４色、
  本文２色
- ● 頒　価　：1,000 円＋税
- ● 購入方法：協会事務局で販売

※　今号から書店では販売いたしません。
　　ご購入ご希望の方は、協会事務局までご連絡ください。

会 員 限 定

第 10 回「広報ゼミ」(4 月 19 日)開催報告
テーマ：危機管理広報

企 業 部 会

第 10 回広報ゼミは 2013 年 4 月 19 日（金)、アーバンネット大手町ビル、ＮＴＴコーポレート・ニューズルームで、「危機管理広報」をテーマに開催されました。

広報ゼミは、「なかなか知る機会が少ない他の企業の状況を、お互い情報交換する」という趣旨で開催され、ニーズの高い共通テーマを選んで、課題共有と情報交換を進めてきました。

今回のテーマは「危機管理広報」で、コンプライアンス上の問題や、災害時、様々な事件・事故等、企業が危機的状況に置かれた場合の広報のあり方は、平時の広報とは異なる様々な課題があります。危機管理時の広報のあり方について、過去の事例・体験を類型化し、また、実際、参加企業同士で自社の事例を共有しあうことを目的に、事前アンケートでは 33 社の協力を得、当日は 26 社、27 名が参加しました。

第 26 回PRスキル研究会
情報流通構造とコンテクストで考えるPR
～ソーシャルメディア時代のPR新常識～

Ｐ Ｒ 業 部 会

2013 年 5 月 28 日（火)、麻布研修センター「霞会館」大会議室にて、協会ＰＲ業部会会員及び会員会社社員を対象に、第 26 回「ＰＲスキル研究会」が実施されました。今回は㈱電通パブリックリレーションズ シニアコンサルタントの細川一成氏を講師にお招きして、「情報流通構造とコンテクストで考えるＰＲ ～ソーシャルメディア時代のＰＲ新常識～」というテーマのもと、広報担当者とメディアの良好な関係を構築するパブリックリレーションについてお話しいただきました。

ＰＲ業界底上げのための第一歩

ビルコム㈱ Bussiness Develop Div.
Manager 中堀 那由太

㈱電通テックの長竹様よりバトンを受けました、ビルコム㈱の中堀那由太です。前号で「若き」とご紹介頂きましたが、年齢は 30 歳と決して若くはない年齢ですが、とはいえＰＲのプランナー資格取得に至るまで、また現在までの経歴も交え、お届け出来ればと思います。

まず私自身の自己紹介から。大学卒業後に総合商社に入り、その一年後に退職しＰＲの会社に転職するという、いわゆる「イマドキの若者」でした。2007 年に前職であるＰＲ会社に入社し、はじめてＰＲという領域に触れたのですが、非常に若いベンチャー企業だったため、即座に現場で仕事をする機会が多くなりました。知識もスキルもないまま、ひたすら現場で会得していく日々の中でＰＲプランナー資格試験が始まることを耳にし、会社からの援助もあったことから受験することを決意しました。

ＰＲプランナー試験を受験したことで、得られたものが大きく二つあります。一つ目が言わずもがなＰＲに対する知識。特にＰＲ会社の若手にありがちなことですが、毎日忙殺され勉強する時間も取れず、目の前の仕事で精一杯になってしまうことが多々あると思います。そんな時に大局的な視点でＰＲを見つめ直すには絶好の機会になると思います。メディアリレーションや危機管理など、得意分野はそれぞれ異なると思いますが、なかなかＰＲのすべてに携わる機会は少ない中、今の自分の仕事がどのような意味があるのかを改めて考えるきっかけを与えてくれます。二つ目は人との出会い。合格し交流会などに参加すると異なる世代、異なる仕事をしている方々と出会うことができます。それぞれの仕事や立場からの、それぞれのＰＲを皆さんお持ちで、お話をさせていただくだけでも視野が広くなることを実感します。どうしても社外の交流とはいえ、同世代の友人たちで固まってしまいがちなのですが、ＰＲプランナーをきっかけに知り合った方々のおかげで、如何に自分が狭い世界で生きていたかを実感し、逆に会社の中では分からない対外的な自分の強みも知ることができました。

現在はビルコムというＰＲ会社に勤務しています。この会社では、デジタル領域のコミュニケーションを強みに総合的なＰＲのプランニングを担当しています。実感されている方も多いと思いますが、ＰＲを勉強されている方は年々増えており、私も自分なりのユニークネスを身に付ける必要があると思っています。一方で一面的にＰＲを捉えている方も多く、「ＴＶに取り上げられるには？」「新商品をＰＲで売上に繋げたい」などという声もお聞きする機会も依然としてあります。ＰＲ業界にいる人間として常に考えていることは、「パブリックリレーションズ」の概念をしっかりと日本に根付かせたい、手法論ではない考え方のＰＲを浸透させたいということです。

組織が動く上で重要視されるべき考え方であり、それは組織の存在をも定義づける考え方だと思っています。そのベースがある中で、はじめて手法論を展開しなければ軸がぶれてしまい、本来的なＰＲを推進することは不可能だと思っています。成長してはいますが、まだまだ理解浸透を進めなければならない業界だと思います。その上で、ＰＲプランナー資格を取得する課程の勉強は必須であり、それを更に周りにも広げていくということが有資格者の使命でもあるのかなと思っています。

そんなこんなで私の話を締めさせて頂き、次回はイベントというソリューションを軸にグローバルでも活躍をされている㈱セレスポの越川延明さんにバトンを繋げたいと思います。

会 員 限 定

。

第147回定例研究会
心を揺さぶり感動を与える「ガイアの夜明け」の映像作り
―人気経済ドキュメンタリー番組の舞台裏研究―

講　師：株式会社テレビ東京　報道局　報道番組センター
「ガイアの夜明け」チーフプロデューサー　野口 雄史 氏

第 147 回定例研究会（4 月度）は 4 月 19 日(金)、六本木アカデミーヒルズ 49 で開催しました。講師は㈱テレビ東京 報道局 報道番組センター 「ガイアの夜明け」チーフ・プロデューサー 野口雄史氏。テーマは「心を揺さぶり感動を与える「ガイアの夜明け」の映像作り ―人気経済ドキュメンタリー番組の舞台裏研究―」。

有料参加者は 64 名でした。

＜コラム　関西の風＞

落語を聴いてみませんか

㈱リーガロイヤルホテル マーケティング部長
高田　宏

本年４月より、荻田の後任としてＰＲ協会に入会いたしました。引き続き、よろしくお願いいたします。

2008 年～2013 年、東京に赴任しておりました。その間に、リーマンショック・新型インフルエンザ・東日本大震災・二度の政権交代と激流にもまれた５年間でしたが、初めての転勤・単身赴任ということもあり、東京での生活は大変刺激的なものでした。

実は、東京へ行く際に、仕事はともかく「東京落語と蕎麦を極めたい」という野望(大袈裟ですが)を持っていました。

蕎麦屋はあまり廻れませんでしたが、落語は結構楽しみました。

笑いを追求した上方落語も好きなのですが、一人芝居のような側面(話芸の追及)を持った東京落語もいいものですよ。

笑い疲れたこともあります。感動して、しばらく動けなくなった経験もあります。落語を笑いだけだと思ってはいけません。泣ける落語、感動する落語もあるのです。気軽に楽しめて、奥深い。そんな世界を是非、体験してみてはいかがでしょう。ＤＶＤ・ＣＤと名人の落語に触れる機会は増えていますが、やはり「生」が一番です。観客と噺家との一体感は、寄席の現場でしか味わえません。

落語は不思議な芸です。噺家(はなしか)が座布団に座り、全ての役を声・仕草だけで表現する。衣装も着物だけ。小僧さんから大名まで、お嬢さんから老婆までを一人で演じるというのは、世界的にも珍しい芸だと思います。聞く側にも想像力が求められる、ある意味成熟した芸だといえます。

初めての方は、とまどうこともあるとは思います。一番いいのは、落語好きの友人に連れて行ってもらうことですが、周りにいない場合も大丈夫。大阪であれば、毎日やっている定席「天満天神繁昌亭」(大阪天満宮に隣接) へ。落語と漫才や手品などを一度に観ることの出来る昼席がお勧めです。大爆笑の噺から、思わず泣きそうになる人情噺、現代をテーマした新作まで多様で奥深い世界が広がっています。何席かの落語を聴けるので、きっと気に入る方がいると思います。そうなれば、ネットでその噺家さんのスケジュールを確認し、また見に行きましょうという気分になります。

最後に初心者の方にもお勧めの噺家さんを紹介しておきます。

上方＝桂九雀(くじゃく)、桂三喬(さんきょう)、桂文三(ぶんざ)、笑福亭たま

東京＝柳家権太楼(ごんたろう)、柳家喬太郎(きょうたろう)、立川談笑(だんしょう)、三遊亭遊雀(ゆうじゃく)。

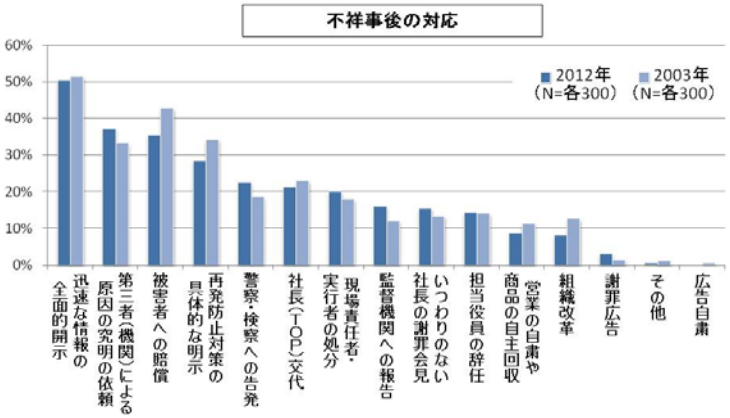
■ 会員便り

当協会法人正会員の共同ピーアール㈱が、「企業不祥事に関する意識」を把握するため、関東圏、関西圏の300名（給与所得者）を対象にインターネットによるアンケート調査を実施しました。

不祥事を起こした企業に求める対応は、「迅速な情報の全面開示」がトップ。「第三者（機関）による原因の究明の依頼」が 4 位から 2 位へ。

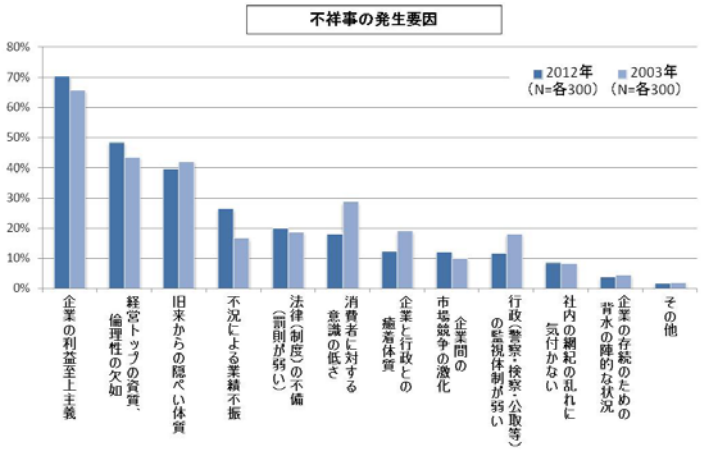
■不祥事後の対応は、「迅速な情報の全面的開示）」が5割を超える。

不祥事を起こした企業が行うべきことについては、「迅速な情報の全面的開示（50.7%）」がトップ。次いで、「第三者（機関）による原因の究明の依頼（37.3%）」になった。2003年の調査と比べると、「第三者（機関）による原因の究明の依頼」、「警察・検察への告発（22.7%）」、「監督機関への報告（16.0%）」が増加し、「被害者への賠償(35.7%)」「再発防止対策の具体的な明示(28.3%)」が低くなった。



■不祥事の発生要因は、「企業の利益至上主義」が7割を超える。

不祥事の発生要因は、「企業の利益至上主義（70.3%）」がトップ。次いで、「経営トップの資質、倫理性の欠(48.3%)」、「旧来からの隠ぺい体質（39.7%）」となった。2003年の調査と比べると、「不況による業績不振（26.3%）」が、前回よりも10ポイント近く上昇。「法律の不備（罰則が弱い）（20.0%）」も1.3ポイント上昇した。

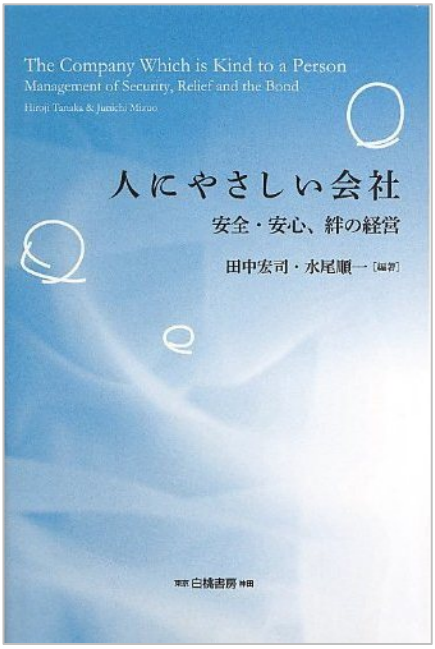


※実施時期：〔2012年調査〕2012年10月5日～10月9日／〔2003年調査〕2003年4月9日～4月11日

【本件、及び、調査結果詳細のご要望についてのお問い合わせ先】
ＰＲ総研（共同ピーアール㈱内）　高木・土生（はぶ）
TEL：03-3571-5159／FAX：03-3574-5183

■ 会員便り

当協会理事であり個人正会員Bの淑徳大学 教授 清水正道氏が所属している日本経営倫理学会CSR研究部会メンバーによる著作（調査研究成果をまとめた共著）「人にやさしい会社」が 5 月 2 日に刊行されました。



企業広報部門の業務内容や行動にある変化が見られる。「企業の広報活動意識実態調査」（経済広報センター：2012 年）によると、報道対応や社内広報を主業務としつつも、海外地域別広報や危機管理への対応が増えている。なかでも顕著な変化はＮＰＯを「企業の社会貢献活動のパートナー」とみなす企業が 2008 年比で約 1.9 倍に増えていることだ。

調査時点の 2011 年は、東日本大震災とタイ大洪水が発生した年だ。広報部門にもさまざまなチャレンジが要求されたのだろう。そのことが今後、広報に何をもたらすかを考えたい。

田中宏司・水尾順一編著『人にやさしい会社－安全・安心・絆の経営』は、日本経営倫理学会ＣＳＲ研究部会のメンバーによる企業経営のあり方に対する問題提起の本である。広報の本ではないと見られがちだが、筆者（清水氏、以下同）も含め、何人かの企業広報関係者がこの部会に参加している。

筆者は、本書第 1 章第 1 節で三陸被災地域に対する企業 4 社の支援対応を取材して、①緊急時での現地対応、②他社・他組織との協働、③活動プロセスや成果の情報開示と広報の 3 点を教訓として引き出している。考えてみれば、これは広報の原則でもある。

また 4 社に、ヤマト運輸や日本ＩＢＭだけでなく、宮司や登山家が設立した会社を取り上げた。いま企業のＣＳＲ報告が ISO26000（社会的責任に関する手引き）に準じて行われるようになってきているが、その規格の中に「社会的責任に関するコミュニケーション」がある。ＣＳＲのような個人の価値観に関わる領域を扱うコミュニケーションに関しては、多様なツールや形態による継続的なコミュニケーションが欠かせない。規格が意図した実例がここにある。

恐らくこれからの企業コミュニケーションにも、企業会計が連結に移行し、取引配慮がサプライチェーンに拡大したように、多様な社会的組織との連携・協働にシフトしていく可能性がある。

米国のコーポレート・コミュニケーション専門書を紐解くと、企業の内部環境に着目する論説がかなりある。単に経営者や従業員が元気にならないと業績向上もままならないというだけでなく、企業の価値創造の源が多様な外部と内部との連携にあるとしたら、広報のゲートキーパーとしての役割は注目を集めよう。外部と連携しつつ、内部におけるコミュニケーションにどう取り組むのか－本書の企業事例は参考になるだろう。ただ本書は研究部会メンバーによる共著なので、多少読みにくい点もあるかもしれない。

＜書籍データ＞
企業内部のコミュニケーション課題を読み解く本
『人にやさしい会社　安全・安心、絆の経営』（318 ページ）
　著　者　：田中宏司・水尾順一（共著）
　出版社　：白桃書房
　発行年月：2013 年 5 月 2 日
　価格　　：2,500 円（税込）

PRSJ in Media

● 5 月 1 日（月）　『月刊広報会議』6 月号

㈱宣伝会議の『月刊広報会議』6 月号に、当協会からの投稿が掲載されました。「コミュニケーション環境の変化とＰＲ」とのテーマのもとに、「ＰＲ業近未来予測研究会」が行った「ＰＲ業界の 3 年後のあるべき姿像」に関する研究のポイントが 5 点にわたって紹介されています。

● 5 月 1 日（月）　『月刊ぎふと』5 月号

㈱ビジネスガイド社が発行する『月刊ぎふと』5 月号における「第 47 回プレミアム・インセンティブショー春 2013」の報告を行う記事中で、当協会が本ショーに出展した「ＰＲアワードグランプリ」受賞展示について記載されました。
記事では、「ＰＲアワードグランプリ」が、「日本プロモーション企画コンテスト」、「消費者のためになった広告コンクール展」とあわせ、販促、広告、ＰＲの 3 大アワードとして紹介されています。

編集担当より

会員のみなさんの情報をお寄せください！！

本誌では会員の動向・消息や、会員から会員へのお知らせなどを積極的に掲載いたします。ビジネスに直結する情報に限らず、会員交流に関するものでも結構ですので是非ご一報ください。

編集担当より

本誌の内容に関するご意見・ご希望をお寄せください。
中身の濃い会員誌に育てていきたいと思いますので、
よろしくお願い致します。

広報委員会
Ｅメール　mail@prsj.or.jp
ＦＡＸ　03－5413-2147

※　禁転載